はじめに

近年の少子高齢化や経済低成長等による社会情勢の変化により、個人の努力では乗り越えられないほどの生活問題が出現している。家族や地域住民といったインフォーマルな支援の脆弱化も相まって、生活問題の軽減・解決は、より困難を極めている。このような状況下において、人々とともに問題等について考え、一歩踏み出すべく光を灯す手助けを行うのがソーシャルワーカーである。ゆえにソーシャルワーカーの役割はいっそう期待されてきている。

しかしながら、ソーシャルワーカーは専門職業として発展途上にある。それは、伝承し得る技術に乏しいからである。この原因は、ソーシャルワーカーが医療関係職種のような科学的な検証を十分に行ってこなかったこと、経験則による実践を重視してきたことなどにあると考える。現状では、カリスマ的な援助能力を有するソーシャルワーカーが存在する一方、援助に難渋するソーシャルワーカーが存在する。クライエント・システム側から考えれば、ソーシャルワーカーにより自らの問題・課題が左右されるため、リスクの高い出会いとなっているのである。

本書では、ソーシャルワーカーの伝承しうる技術の開発を最終目標とし、その初段階として次の２点について示すことにした。１点は、ソーシャルワーク実践の可視化の方法である。ソーシャルワーカーは、生態学理論などを基礎に人と環境の交互作用を解釈し、ニーズを抽出・アセスメントし、問題解決・課題達成のための計画を立案、そして実行する。医師や心理職のように「検査」という客観的指標を持ち得ていないことから、自身の主観がアセスメントに大きく影響するのである。この状況の打破に有効なのは、自身の主観を制御するための知見である。本書では、ソーシャルワーカーの自己覚知に有用な資料を得るための方策として、ソーシャルワーク実践の特徴や傾向を可視化する方法を提示する。

もう１点は、クライエント･システムの可視化の方法である。上述のとおり、

自身の主観がクライエント・システムの評価に大きく影響することから、ソーシャルワーカーが個別化を容易に実践できるよう、クライエント・システムの共通性を可視化する方法を提示する。

なお、本書では数値化による可視化を行うことから、量的研究法を用いることとした。文系出身者の多いソーシャルワーカーには難題かもしれないが、クライエント・システムへの質の高い援助の実践、さらには伝承しうる技術を次世代に残すためにも取り組んでいただきたいと願っている。

編著者　竹本与志人

ソーシャルワーク実践のための量的研究法

―新しいセーフティーネットの構築に向けて―

目　次

はじめに……i

第１章　ソーシャルワーク実践における量的研究の意義 …… 1
第１節　量的研究は誰のためのものなのか　2
第２節　量的研究により何が明らかになるのか　3
第３節　量的研究の成果はソーシャルワーク実践にどのような変化をもたらすのか　5

第２章　量的研究の進め方 …… 8
第１節　臨床疑問を設定する　8
第２節　研究疑問の設定とそのための構造化　10
第３節　研究疑問の確定のための文献的検討　13
第４節　研究可能性の確認　15
第５節　研究モデルの構築　16
第６節　概念定義と尺度選定、研究デザインの決定　19
第７節　調査の実施、データ収集・分析、結果の報告　21

第３章　他集団との比較により集団特性を把握する …… 24
第１節　統計的仮説検定　25
第２節　統計的仮説検定に基づいた比較による集団特性の検討　27
コラム１　ノンパラメトリック検定　35
コラム２　統計的仮説検定と効果量　36

第４章　集団の現象を測定する …… 40
第１節　集団の現象を測定するとは　40
第２節　既存の尺度による測定：尺度の選び方　44
第３節　尺度開発の方法　51

第５章　集団の現象の関連要因を探索する …… 64
第１節　相関分析による関連要因の検討方法　65
第２節　回帰分析による関連要因の検討方法　70
第３節　ロジスティック回帰分析による関連要因の検討方法　75

第６章　集団に起きている因果を可視化する …… 80
第１節　パス解析を用いた因果関係モデルの検討方法　81
第２節　構造方程式モデリングを用いた因果関係モデルの検討　84
第３節　多母集団同時分析による因果関係モデルの検討　92

第７章　集団を個人特性に着目して類型化する …… 99
第１節　集団の特性に基づいて類型化するとは　99
第２節　クラスター分析を用いた類型化の方法　103
第３節　潜在クラス分析を用いた類型化の方法　111
コラム３　クラスター分析を用いた変数の類型化　120

第８章　階層構造を持つデータの因果関係を検討する …… 124
第１節　階層構造をもつデータの因果関係を検討するとは　124
第２節　マルチレベル分析の適応と考え方　130
第３節　マルチレベル構造方程式モデリングを用いた因果関係モデルの検討　134

おわりに …… 140

索　引 …… 142